

奥羽大学報



開幕の刻（病院棟 2階ロビー）

目次

奥羽大学の理念・目的 / 第300号の発行に寄せて 研究倫理・研究不正防止に関するセミナーの開催 2023年度実験動物供養	1
2023年度奥羽大学大学院歯学研究科研究経過発表会の開催 オープンキャンパスの開催 本多真史講師（歯学部：日本語学）が「介護口腔ケア推進士」に認定 薬学部第1回FD研修会	2
薬学部卒業研究中間発表会 / 薬学部学生に対するハラスメント教育 薬学部「英語圏言語文化研修」/ SD研修会の開催 文学部同窓会からのお知らせ	3
歯学部学生が全日本歯科学学生総合体育大会アーチェリー部門優勝 歯学部学生がSCRJP日本代表選抜大会入賞 第55回全日本歯科学学生総合体育大会	4
自著を語る / 山下教授、図書館に寄贈	5
奥羽大now「本多真史歯学部講師が二本松市で講演」 附属病院 休日・夜間時の自衛消防訓練	6
キャンパスの風景 / ちょっと寄り道	7
新任教授紹介	8
同窓会だより / 同窓生のひろば	9
奥羽大学学報は、ここから始まった	11
人事 / 奥羽大学 2024年度 一般選抜 入学試験日程	12

175
通算 第300号

奥羽大学の理念・目的

理 念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

目 的

奥羽大学は、教育基本法（昭和22年法律第25号）並びに学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部はその目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

第300号の発行に寄せて

奥羽大学 学長 清 浦 有 祐

奥羽大学報は、今号をもって前身である「東北歯科大学報」から数えて記念すべき第300号を迎えることになりました。大学が創立されてから今日までの51年間、奥羽大学報は在籍する学生、教職員、保護者、そして卒業生を結ぶ大切な絆の役割を担ってきました。大学の現状を伝えるとともに、過去の歴史をふり返ることができる貴重な冊子でもあります。

私自身も米国留学中には航空便で事務局から送っていただいた奥羽大学報を何度も読み返して、母校に思いを馳せたものでした。大学での日々が綴られたほんの僅かの文章が、日本を離れて何年にもなる者に懐かしい思い出を蘇らせてくれたものです。現在の大学報は大学ホームページ上に掲載されていることから、世界中のどこからでもいつでも読むことができます。もしかしたら、この文章を遠く離れた海外で読まれている卒業生もいるかもしれません。

奥羽大学の歩みと共にこれからも奥羽大学報が皆さんに読まれ、愛され続けることを心から願っております。

研究倫理・研究不正防止に関する
セミナーの開催

研究倫理・研究不正防止に関して、奥羽大学はセミナーの開催などを通じて大学全体で取り組んでいる。その一環として、7月28日(金)17:15からオンラインセミナーを開催した。今回は、東北大学大学院文学研究科社会学分野の田代志門准教授から、研究倫理審査の実際とその問題点について詳しい解説があった。歯学部および薬学部教員と大学院生の計143名が参加した。

2023年度実験動物供養

5月30日(火)、郡山市片平町の霊鷲山常居寺本堂において、献体者合同慰霊式の後に実験動物供養がしめやかに営まれた。新型コロナウイルス感染症対策として人数を制限し、学長、歯学部長、薬学部長、動物実験委員会委員長および学生代表者が参列した。生命科学の目覚ましい進歩は、実験動物の犠牲の上に成し遂げられたものである。本学における教育と研究のために尊い命を捧げてくれた多くの実験動物に対して、参列者全員で心から感謝を表した。

2023年度奥羽大学大学院 歯学研究科研究経過発表会の開催

8月31日(木)の13:00から(翌日も再配信) Zoomを利用したオンライン開催にて、2023年度奥羽大学大学院歯学研究科研究経過発表会を行った。今年度は、研究演題数が20演題で、しかも午後からの開催のため、一つ一つの演題ごとに質疑応答を行う時間が取れなかったものの、大学院生が発表した演題内容は多岐にわたり、興味深い研究発表が多数行われた。今後は、大学院教員から出されるアドバイスを参考に、来年の学位取得に向けて研究がより進展することを望みたい。

オープンキャンパスの開催

新型コロナウイルス感染症対策のために、2020年度からオンライン開催となっていたオープンキャンパスが、7月26日(土)と8月2日(土)に本学で現地開催された。どちらも非常に多くの高校生諸君や保護者の方々が参加され、盛況となった。

学長と学部長より本学の沿革から現在の教育方針にわたるまでの詳しい説明があった後、参加者と本学教授陣との個人面談が行われた。面談の際は、本学の特徴や学生生活などについて様々な質問が寄せられた。実際に本学の施設を見学し、教員や在学生と話をさせていただくことで、高校生諸君と保護者の方々に本学の魅力を伝える貴重な機会となった。

薬学部第1回FD研修会

本年度第1回薬学部FD研修講演会が7月8日(土)に薬学部棟で開催された。薬学部に新しく着任された竹ヶ原靖子講師により、「学生とのコミュニケーションで気をつけることーハラスメントの被害者・加害者にならないためにー」と題した講演が行われた。ハラスメントの判断基準と種類について説明があり、最近の学生や保護者の傾向を鑑みて、教員が取るべき対応および加害者にならないためのポイントについて詳しい解説が行われた。

本多真史講師(歯学部：日本語学)が 「介護口腔ケア推進士」に認定

本多真史歯学部講師が、「介護口腔ケア推進士」検定試験に合格し、認定を受けた。

介護口腔ケア推進士には、口腔内の異常にいち早く気づき、適切な治療を受けられるようにする大切な役割がある。歯科医師や歯科衛生士などの専門職に橋渡しをしたり、認知症などで症状を訴えられない当事者に代わって病状を説明したりする際にも、介護口腔ケア推進士の技術・技能が役立つ。また、正しい口腔ケアで「人生の最期まで自分の口でおいしく食べられる」を支えることも、介護口腔ケア推進士の大切な役割である。

本多講師は、本学着任(2017年)以降、高齢者傾聴スペシャリスト資格取得(2019年)、アンガーマネジメントベーシック資格取得(2020年)、コミュニケーションスキルアップ講座受講修了(2021年)、カウンセラーベーシック資格取得(2022年)、子ども発達障がい支援アドバイザー資格(2023年1月)を取得するなど、自己研鑽を積んでいる。本多講師は、「これらの技術・技能は、医療現場にも関係する点がある。特に、ヒューマン・スキル(対人関係能力)という点で、それは顕著である。自身が培った技術・技能を講義に取り入れて学生に教授するなど、工夫された授業を展開していきたい」と考えているようである。



認定証を手にして微笑む本多講師

薬学部卒業研究中間発表会

6月17日(土)に薬学部6年生97名による卒業研究中間発表会が開催された。第2講義棟では25名による口頭発表、学生食堂ハーモニーでは72名によるポスター発表がそれぞれ行われ、教員のみならず、これから卒業研究を開始する4年生からも多くの質問があり、活発な議論が行われた。卒業研究は科学的根拠を基に問題を発見・解決する態度とプロセスを修得することを目的として行われる。この経験が、卒業後も生涯にわたって主体的に学習する糧となることを期待する。



発表を熱心に聞き入る参加者たち

薬学部学生に対するハラスメント教育

薬学部では、今年度の6月から竹ヶ原靖子講師によるハラスメント防止講習会を各学年で開催している。コミュニケーションは双方向的であることと、対人間の問題がハラスメントという形で浮上するという考えから、学生を対象に実施しているものである。

内容は、ハラスメントの基本的な知識に加え、コミュニケーションの注意点や学内外実習で起こりやすい対人トラブルなど、大学生活での人間関係を広く取り上げている。学生と教職員の双方が気持ちよく過ごせるキャンパス作りの一助となれば幸いである。

薬学部「英語圏言語文化研修」

薬学部「英語圏言語文化研修」が、9月1日(金)から3日(日)まで天栄村のブリティッシュヒルズで行われ、本年度は1～4学年の学生7名が参加した。本研修は薬学部の選択科目となっており、学生はネイティブスピーカー指導の下、英会話やスピーチの授業を受講したほか、菓子作りやテーブルマナーなど英国文化を体験するプログラムにも参加した。中世英国の趣きを伝える環境の中で、参加者は研修を通じて英語力を高め、英国文化への理解を深めた。



ブリティッシュヒルズにて

SD研修会の開催

2023年度の第1回SD研修会が、9月29日(金)17:10から17:40までZoomを用いたオンライン形式で開催された。講師は本学薬学部の木田雄一准教授で、「ChatGPTについて」と題した講演であった。ChatGPTをはじめとする生成AIは教育や医療の現場で広く用いられるようになってきたが、不確かな情報の拡散や不正使用などの社会問題も引き起こしている。そこで、今回は木田准教授にChatGPTの基礎から実際に使用して直面する問題まで詳しく解説していただいた。ChatGPTの使用を考えている教員・職員にとっては、大変有意義な研修会となった。

文学部同窓会からのお知らせ

本会では卒業後の所在確認のため、任意で現在のご連絡先(住所)の登録をお願いしています。卒業時に「卒業アルバム掲載用」として住所をご提出され、その後住所が変更になった方なども、情報更新として、ご登録頂くことも可能となっています。「奥羽大学文学部同窓会」ホームページ(<https://www.ohu.l-net/>) > 「同窓会会員登録ページ」から入力フォームにて情報をお送りください(SSL対応済)。

また、はがき等での郵送も可能です。「〒963-8691 郡山郵便局 私書箱第40号 奥羽大学文学部同窓会事務局」へ、卒業期(年度)・お名前・連絡先などを明記の上お送りください。

文学部同窓会長 松尾 毅(文学部1期生)

歯学部学生が全日本歯科学生総合体育大会アーチェリー部門優勝

歯学部第3学年の山本和希さんが、第55回全日本歯科学生総合体育大会アーチェリー部門新人戦男子で見事優勝した。新型コロナウイルス感染症のために控えていたクラブ活動が再開されてから短期間の練習で試合に臨み、新人戦で優勝することができたことは、山本さんの努力の賜物といえる。



左から清浦学長、山本さん、安部教授

歯学部学生がSCRP日本代表選抜大会入賞

歯学部第5学年の秋山真実さんが、8月25日(金)に東京市谷の日本歯科医師会館で開催された「日本歯科医師会主催 スチューデント・クリニシャン・リサーチプログラム 令和5年度日本代表選抜大会」において、「うま味刺激誘導性唾液中に着目した喫煙マーカートンパク質の解析」という演題で発表を行い、見事第3位に入賞した。秋山さんの日頃の熱心な研究活動が実り、日本代表まであとわずかという快挙となった。



左から清浦学長、秋山さん、川合教授

第55回全日本歯科学生総合体育大会

全日本歯科学生総合体育大会夏期大会は、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、第52回および第53回大会が中止となったが、本年度は昭和大学歯学部を事務主管として4年ぶりに開催され、本学歯学部は3部門に参加した。結果は下記の通り。

○アーチェリー部

2023年8月5日(土)～8月6日(日)

つま恋リゾート彩の郷アーチェリー場

新人戦 優勝 山本和希

○準硬式野球部

2023年8月7日(月)～8月10日(休)

KYBスタジアム、大野町立運動公園レインボースタジアム、池田公園野球場、長良川球場、多治見市営球場、春日井市民球場

本戦

奥羽大学 対 昭和大学 12 対 10

奥羽大学 対 大阪大学 2 対 3

5位決定戦

奥羽大学 対 徳島大学 4 対 3

奥羽大学 対 北海道大学 9 対 1

奥羽大学 対 九州歯科大学 2 対 3

最終結果

第6位



準硬式野球部のメンバーたち

○バスケットボール部

2023年8月1日(火)～8月6日(日)

水海道総合体育館、石下総合体育館、坂東市総合体育館、坂東市猿島体育館

予選1回戦

奥羽大学 対 日本歯科大学(東京) 92 対 46

予選2回戦

奥羽大学 対 北海道大学 28 対 39

予選敗退

 自著を語る

第46回福島民報出版文化賞奨励賞受賞作品

『ふくしま スミレ図鑑』

山下俊之、山下由美、遠藤雄一著 歴史春秋社 2022年4月刊行



野山に咲く花々の素朴な美しさや健気さに魅力を感じ、また、絶滅が危惧されている植物を探し出しては写真を撮る楽しさにはまって、仕事のかたわら早春から晩秋にかけてほとんどの週末や休日は夫婦で花を求めて山野を歩き回っています。初任地の北海道、留学先のアメリカ東海岸、そして本学薬学部開設を機に移住した福島県と、かれこれ25年以上にわたってこのような生活を続けています。広大な福島県に産する植物は多様性に富み、スミレに関しても例外ではなく、じつに多くの種類を見ることができます。

万葉集の歌にも登場するように、スミレは日本人に古くから親しまれてきた山野草の一つです。花の形は独特ですので、一目ですぐスミレの仲間とわかりますが、花卉の色・形・内側に生える毛の有無、葉の形・付き方、また生育環境などが異なるたくさんの種類があります。スミレ属 (Viola) の植物は世界に約600種があり、日本には50種ほどが分布しています。スミレには変異が多いので、これらの種はさらに変種や品種に多く分けられています。加えてスミレは交雑しやすく、数多くの自然雑種が知られています。これらを合わせると、日本は200種類を超えるスミレを産すると推定されていて、まさにスミレ王国です。

これまで15年にわたり撮りためた福島県内に自生するスミレの写真を写真集として刊行することを考えていましたが、福島県のスミレを精力的に研究されている共著者の遠藤雄一氏の助言もあり、単なる写真集ではなく県内の分布状況も詳述した学術的な観点の併せもつ書物として出版することにしました。写真を撮るに当たっては、その花の特徴を図鑑的に捉え、さらにその姿を美しく表すように努めました。各スミレの頁に添えられた県内分布図は、主に福島大学共生システム理工学類生物標本室 (FKSE) に所蔵されている標本を基に作成しました。

本書は花好きな人のみならず広く一般の方にも好評のようで、第46回福島民報出版文化賞 (県内在住者が2022年内に出版した単行本が対象) の奨励賞を受賞しました。この賞は、福島県内の優れた出版物をたたえ出版文化の向上を図る目的で、昭和53年に福島民報社が福島県と県教育委員会の後援を受けて創設されたものです。大変名誉ある賞をいただき光栄です。本書を通して福島県に咲くスミレの奥深い世界を多くの方に知っていただければ幸いです。

(薬学部 免疫学分野 教授 山下俊之)

 山下教授、図書館に寄贈

図書館では、山下教授から寄贈いただいた『ふくしま スミレ図鑑』をコーナーを設けて紹介しました。コーナーには第46回福島民報出版文化賞関係の記事が掲載されている福島民報も展示しました。2023年7月18日号第1面には「民報出版文化賞決まる」の見出しで受賞作決定の記事、7月26日号には25日に福島市の民報本社で行われた表彰式の記事、7月28日号には「飽くなき探究心結実」の見出しで、受賞者座談会の記事が掲載されています。これらの記事も本学関連の貴重な資料ですので、図書館ではスクラップして保存します。



奥羽大NOW

本多真史歯学部講師が二本松市で講演

7月29日(土)、本多真史歯学部講師が「方言は生きる力」と題し、二本松市文化センターで講演を行った。

昔から「方言は国の手形」と言われているように、日本語は地域差の大きな言語であり、標準語・共通語では表現し得ないこと・ものが、その地域の言語体系に組み込まれている。そのため、各地域の生活に根ざした方言は、今もなお消えることはない。上記と相まって、方言には相手との距離を縮めるという心理的な機能があり、現在、地域の言葉の重要性が改めて注目されている。「方言について話していると、ふるさとが懐かしくなってくる」

「地元の文化の根っこにあるのが方言」など、方言に対する思いは多数聞かれている。

この講演会に参加した女性が、「生きていく上でコミュニケーションは大切です。方言は親近感を抱かせます。私もこれから、どんどん方言を使っていきたいと思っています」との思いを『福島民報』（8月18日付）に投稿してくださった。これに代表されるように、この講演会の反響は大きい。

本多講師は、「大学教員は学問への『貢献と義務』があります。故郷である福島県に少しでも恩返しができるれば幸いです」と話していた。



講演する本多講師



聴講する二本松市民

附属病院

休日・夜間時の自衛消防訓練

9月7日(水)、附属病院において歯科医師、看護師、事務職員など30名が参加し休日・夜間時の自衛消防訓練が行われた。地震および火災発生時の通報連絡の手順、2人および4人体制による担架搬送訓練を実施した。休日・夜間はスタッフが少ない中での誘導避難を行わなければならないことから、日頃の心構えと訓練が大切である。



慎重に患者を搬送する病院職員

キャンパスの 風景

君待つと吾が恋ひをれば我が屋戸のすだれ動かし秋の風吹く 額田王

写真の塑像は、山田良定氏が1998年、第30回の日展に出品した作品。本学附属病院2階正面玄関に設置してある。同作品にて、山田氏は1999年3月に芸術院賞を受賞された。50年に及ぶ製作活動における集大成の作品である。

1931年、作者の山田良定氏は、滋賀県東近江市に生まれた。滋賀大学卒業後富永直樹氏に師事され、1975年、1976年日展で連続特賞を受賞した。母校滋賀大学で教授をされ、2002年に栗東市の病院で亡くなった。この「開幕の刻」の他、学内には「ジーンズの女」(1992年第24回日展出品作)、「ふれあい」、「秋・ふたり」(1994年第26回日展出品作 文部大臣賞受賞)が展示してある。本学の「躍進」像と「Christmas Eve」像は、山田氏の師匠富永氏の作品である。このようなところにも、師匠と弟子の「絆」が垣間見られる。

表紙にある1人の女性は、衣服を身にまとい、どこか遠くを眺めている。一方で、何かを待っているようにも思える。いったい何を待っているのだろうか。この女性は「踊り子」のようだ。自分の出番に備え、舞台のソデで開幕の瞬間を待っている。極度に緊張しつつも、一方で「うまくいきますように」と心を落ち着かせている。幕が上がった瞬間、思いを表現する踊り子の様子が想像される。「静」なるひとときが、開幕と同時に「動」となる瞬間をとらえた作品と言えよう。

これはどこか、恋しい人が訪ねて来るのを待っている心情と重なるようにも思える。来訪を今か今かと期待するあまりに、風が立てるような少しの物音やすだれの揺れにも敏感に反応してしまう心を表現した額田王の和歌も、「静」と「動」とが併存する瞬間をとらえているような気がしてならない。

日常の中に存在する「静」と「動」。「静」があるからこそ、「動」が際立つのかもしれない。

(文 本多真史)



開幕の刻 (かいまくのとき)

ちょっと寄り道! 「世界初の書誌学者ゲスナー」

コンラート・ゲスナー (Conrad Gesner, 1516-65) は世界で初めての書誌学者であり、後年、書誌学の父と言われた。スイス生まれの博物学者。ルターと同時代の人である。その著『博物誌』は有名だが、その一方で、『万有文庫』(Bibliotheca Universalis, 1545) (世界書誌、世界文献目録ともいう) を著し、書誌学の基礎を築いた。若きゲスナーはイタリア、ドイツなど各地の図書館で、ギリシャ語、ラテン語、ヘブライ語で刊行された印刷本と写本のすべての書誌を作成しようと書誌事項の採録に努めた。「すべての時代、あらゆる言語、すべての領域」を網羅することを目標に作られたこの書誌は、約3,000名の著述家のアルファベット順索引と12,000点の著作が解説された。学問領域の体系的な説明を備えた書誌として近代書誌学の原点がここにある。南方熊楠はゲスナーに感銘を受け、日記に「吾れ欲くは日本のゲスナルとならん」と記している。49歳のときベストで倒れ、他界した。ゲスナーの夢であった「世界書誌」は今、インターネットの世界で結ばれている。

(A)

新任教授紹介



歯学部 総合臨床医学分野
教授 風間 咲美
はじめまして。4月より臨床総合医学教授を拝命しました風間咲美と申します。就任より、ちょうど半年経ちました。

奥羽大学との出会いは1年半前になります。郡山富田駅より少し先の企業に、産業医として勤務しておりました。初めて奥羽大学の前を通りかかった時、なんと大きくきれいな大学なのだろうと思いましたが、1年後に働かせていただいているとは想像もしていませんでした。

さて、経歴につき、少し説明いたします。私は栃木県出身で、専門は消化器内科および女性医学です。獨協医科大学、メルボルン大学、新潟大学およびその関連病院に所属しておりました。7年前、福島県立医科大学への異動に伴い、全く縁がなかった福島県に移ってまいりました。福島県立医科大学では、生活習慣病や腎臓病の治療を研究する講座に在籍し、医療連携作成などに携わっておりました。

このたび、全く未知の世界であった歯学部に勤務させていただくことになりました。歯の痛みが軽減したとき、歯医者さんのありがたさを心から感じます。以前住んでいた新潟市は人口あたりの歯科医師数が最も多いということですが、なかなか予約を取ることができませんでした。歯科の先生に診察していただけることは、貴重な機会だということが、経験上刷り込まれております。ごく一部ですが、歯科医学生さんの教育を担当させていただくことになり、緊張しております。

奥羽大学の学生さんの印象は、素直でまっすぐで、好感が持てます。学生の皆さんは、豊かな自然に囲まれているにも拘らず、市街地にも近い環境で、教職員にも恵まれ、幸せな学生生活を送っておられると思います。一方で、講義や実習で学ぶことが多く、その上で、医科まで習得しなくてはならないのは非常に困難を伴うと思います。講義数の少ない総合臨床医学で、多くを習得していただくために、コンパクトにわかりやすく、また、関心を持っていただけるよう講義を行ってまいりたいと考えております。

診療に関しましては、現在までの経験をもとに、全人的な医療を行ってまいりたい所存です。

特に学生さんに対しましては、卒業まで安心して心置きなく勉学に励むことができるよう、医療面から可能な限りのサポートしてまいりたいと思います。6年間の学生時代には困難な時期もあると思います。投げ出したいこともあるかもしれませんが、そのような時には、一度、医科外来にご相談ください。

どうぞ宜しくお願いいたします。



薬学部 生物・衛生化学分野
教授 高野 真澄

本年4月1日、薬学部教授(生物・衛生化学分野)を拝命いたしました高野と申します。皆様にご挨拶申し上げます。

私は岩手県出身で、1993年に福島県立医科大学医学部卒業後、福島医大第一内科学講座(現循環器内科学講座)に入局しました。内科医および循環器内科医として研鑽を積み、学位を取得しました。専門は心臓超音波法を用いた循環器疾患の病態・予後評価です。

私が福島県民となって36年になります。その間、震災前から震災後に至る福島県の医療に対するニーズの変遷や改革を、福島県に勤務する医師・教育者・研究者として目の当たりにして参りました。震災後、福島県では以前にも増して地域医療と医学の発展に貢献し、地域社会のニーズにあったチーム医療を実践できるメディカルスタッフの育成が求められています。私は超音波診断学を専門とする循環器内科医として福島県の医療に関わると同時に、福島医大や福島県立総合衛生学院における様々な職種(医師、看護師、臨床検査技師、助産師)を目指す学生達に対する教育(主に生理機能分野)にも携わって参りました。本学では、薬学教育における基礎科目として主に解剖・生理学分野を担当いたします。これまでの教育や臨床医としての経験をもとに、医療チームの一員として強い使命感を持つ薬剤師の育成に尽力させていただきたく存じます。

本学の発展に、私のこれまでの経験を活かし、貢献できますよう精進して参る所存です。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会だより

池田 浩之 (歯学部5期生)

全国の同窓生の皆様、如何お過ごしでしょうか。5期生の池田浩之と申します。

今年の夏は私の住む北海道も記録的な猛暑が続き、前期高齢者となった自分にとって大変厳しい夏となりました。

私は卒業後、北海道に帰りたい一心で約4年半東日本学園大学(現北海道医療大学)の第2保存学講座に在籍しました。現在も非常勤講師という立場で学生実習に時々顔を出していますが、当時は一期生がまだ5年生という大変若い大学で、講座も開設されたばかりという環境の中、実習書作り、ポリクリ用のビデオ撮影等大変苦労したことを思い出します。また、学生時代にやっていたアメリカンフットボールの監督、コーチもやりましたが、コーチ時代にはどうしても自分でプレーしたく、学生のふりをして北海道の学生リーグに参加したものです。

私の在籍した第2保存もそうですが、他の講座にも違う大学出身の先生方が沢山おられ、色々な考え方に接し、学生時代とは全く異なる事も教えられ少なからずカルチャーショックを受けたものですが、別な大学の人達と同じ釜の飯を食べてみたのは大変貴重で大きな財産となりました。

大学を退職してからは北は稚内、南は函館と全道各地で勤務しましたが、開業したのは札幌でした。そこそこ患者さんにも恵まれ、今でも何とか現役で大変楽しく働いていますが、今や時代遅れのアナログ人間となり、最近は診療以外で重荷になることが増え、リタイヤすることも考える時期になってきたと実感しています。

私の所属する北海道同窓会には約150名の会員がいますが、役員も高齢化し新入会員は毎年少なくなってきました。今年度は新しい理事が4人増え、コロナも落ち着いてきたため、各事業の大幅な見直しを図っています。同窓会という組織自体、色々な面で大変革期に来ているのではないのでしょうか。

今年の9月23日には札幌で5期会が開催されます。同じ時代に同じ教授の講義を受け、同じ試験を受けた同期生に会い、どんな子供自慢、孫自慢、病氣自慢が聞かれるのか大変楽しみにして

います。

同窓生のひろば



佐野 大輔 (歯学部21期生)

私は大学卒業後に地元の愛知県に帰り、愛知学院大学歯学部顎顔面外科学講座に入局しました。現在は大学の関連病院である稲沢市民病院歯科

口腔外科で勤務しています。

私の趣味は釣りです。沖釣りが好きで年間20回ほど乗合船で釣行しています。春は鰯、真鯛、初夏に伊佐木、真夏はスルメイカ、タコ、秋はカワハギ、剣先イカ、太刀魚、冬は甘鯛、ヤリイカ、フグ(船宿で毒を取り除き、むき身にしてくれます)が私の年間スケジュールです。そんな釣りキチの私ですが、この原稿を執筆している5月だけは毎年、釣りをしません。5月は期間限定で潮干狩りが開催されるからです(結局、海に行きます)。愛知県はアサリの漁獲量が全国1位で、全国シェア48.6%です。しかし、アサリの漁獲量は全国的に年々減少しているといえます。愛知県では2011年の漁獲量は1万6703トンでしたが、2021年は2364トンまで減少しています。先日、テレビのニュースで知ったのですが、アサリ減少の原因は『海がきれいになり過ぎた』ことらしい!? のです。近年、国は海に流す排水の量を規制しており、その影響でアサリの餌となる植物プランクトンが減り過ぎてしまったのです。そこで愛知県は植物プランクトンの増加を目的に排水に含まれる窒素とリンの量を規制値の上限まで緩和する試みをすでに始めています。非常に興味深い実験です。科学は自然を破壊するばかりではなく、再生することもできるのだと信じたいです。

今月、もう1つ驚いたことがあります。学会発表で日本口腔科学会学術集会(岡山)に参加したのですが、そのシンポジウムで、従来は一部の大学病院などで使用されている3Dプリンターを用いたフルカスタムメイドの顎骨再建プレート的一般販売が可能となったと報告されました。歯科の科学もそこまで来たのかと興奮しました。

伊藤 雄介 (歯学部12期生)

同窓生の皆さん、最後の東北歯科大学卒業、12期の伊藤です。

卒業して30数年、平成6年に千葉市で開業して29年、年齢も還暦を過ぎ、お腹周りはたるみ、髪の毛は薄く白髪まじりになりつつあります。

千葉市で開業してすぐに歯科医師会に入会するとともに、学校歯科医、1歳半検診、3歳児検診、口腔がん検診、妊産婦検診、歯周病検診、障がい児歯科診療、要介護老人歯科治療等、行政との連携事業にも参加し、地域医療に少なからず貢献してきているのではないかと考えています。また、歯科医師会では、委員会、理事、副会長、監事と執行部の一員として活動もしてきました、最近では要介護認定審査委員としても活動しています。決してこれがメインではなく、普段は一般歯科診療所として地域の患者さんの治療をメインに働いています。

体調はというと、学生時代はラグビー部でしたが、ラグビーはグラウンドに立つスポーツではなく観戦するものだとすることを学習しました。2か月に1度程度のゴルフも両側性変形性膝関節症の影響もあり、カートがなければラウンドしない怠惰なゴルフです。歯科医師会の野球チーム（定期的に他群市歯科医師会チームと試合を行う）にも参加していたのですが、だんだんと走れなくなり、打者で外野を抜けてもシングルヒットがやっとになり引退しました。

20数年前ですがミニサッカーで左アキレス腱完全断裂（自重だったのかな）で日帰りオペ、ギプスで固定して午後から診療復帰。この時、サッカーも観戦するものと学習しました。あと、大きな変化というか、コロナ禍が第一波のクリスマスから年末年始に入院。これは、クリスマスの明け方、胃が痛くて冷や汗が出てきて血を吐いて、救急車呼ぶほど痛くて、救急隊員が到着して「顔面蒼白、汗すごいです、解りますか、痛みますか」と声をかけられて、「脈測れません」って言われたけど、隊員さん防護服と厚めのグローブしたままでした。で、そのまま搬送されてPCR検査、問診、点滴、輸血、胃カメラで出血部位をクリップで止血、入院、10日ほど点滴と輸血で過ごし、のどを通るのは2日に1度の止血確認のための胃カメラ。2週間ほどで無理やり退院して自院の診療を再開したこともありました。

そしてコロナが2類から5類になった今年、同窓会千葉県支部では執行部役員人事が行われ、支部長に就任することとなりました。今後はコロナ禍で出来なかった年1回の学術講演会、懇親会、他大学の同窓会千葉県支部との懇親会、ゴルフコンペにも積極的に参加し、交流を深めたいと思っています。



神田 大樹 (薬学部6期生)

平成28年3月に卒業し、7年が経過しました。今では二児の父となり、仕事と子育てに追われる毎日をご過ごしています。

今回このような機会をいただき、大学時代の懐かしい記憶を思い起こしています。特に6年生の頃は、夜遅くまで国試の勉強を頑張る一方、友人と体育館のトレーニングルームで筋トレに汗を流していました。トレーニングルームの鍵を学生課に借りに行くと「どのサークルより稼働率が高い」と言われるほどでした。もう筋トレはしていませんが、友人と集まった時は大学時代のバカ話で盛り上がります。先生方にご迷惑をおかけした事も楽しい思い出です。

さて、私は押尾先生からの勧めもあり新卒で福島県職員となり、5年間保健所で薬事規制を担当し、異動により現在は県庁で医療機器の産業振興を担う部署で、規制側の経験を活かして企業支援を担当しています。ドイツやタイとの連携があるため、海外出張など楽しい日々をご過ごしています。

最後になりますが、私の薬剤師としての土台や楽しい思い出を作ってくくださった奥羽大学には大変感謝しております。ますますのご発展を心から願っています。

平成元年5月15日(月)

奥羽大学報

1号 (No. 126) (1)

奥羽大学報

平成元年度 入学式



目次

入学式 挙 行 さ れ る.....	2
告 示 ・ 祝 辞.....	2
歓 迎 の 辞.....	4
宣 誓.....	5
平成元年度入学者名簿.....	6
平成元年度客員教授・非常勤講師 委嘱.....	8
法 人 事 務.....	8
人 事.....	9
編 集 後 記.....	10

1

No.126

奥羽大学学報は、ここから始まった

※通し番号は、東北歯科大学報からの番号です

人 事

<定年・再雇用>

渡部 敏恵 看護係長 病院医療部 5月22日付
看護係長 病院医療部 5月23日付

<定年・再任用>

志村 紀子 教授 薬学部 5月28日付
教授 薬学部 5月29日付

<異動>

国分 優子	新 事務職員	旧 事務職員	7月1日付
	財務部	学事部	
佐久間 隆道	新 事務職員	旧 事務職員	7月1日付
	学事部	財務部	

<退職>

木村 祐輝	助 教	附属病院	8月18日付
千葉 駿一郎	助 教	附属病院	9月30日付
北林 治彦	助 教	附属病院	9月30日付
古川 幸治	病院事務長(相当職)	病院事務部	10月31日付
	事務職員(課長)	総務部	

奥羽大学 2024年度 一般選抜 入学試験日程

歯学部

一般選抜	一期	20名	2024.1.9(火)～1.19(金)	2024.1.25(木)	2024.1.31(水)
	二期	10名	2024.2.1(木)～2.16(金)	2024.2.21(水)	2024.2.27(火)
	三期	5名	2024.2.28(水)～3.12(火)	2024.3.15(金)	2024.3.19(火)
	試験科目	<ul style="list-style-type: none"> ●必修科目 コミュニケーション英語(I・II) ●選択科目 [数学(I・II・A) 物理基礎・物理] 4科目のうち [化学基礎・化学 生物基礎・生物] 1科目を試験会場で選択 ※英語、数学及び理科は各科目とも旧課程との共通部分から出題する ●面接 			
試験会場	一期 本学キャンパス 二期 本学キャンパス 三期 本学キャンパス				

薬学部

一般選抜	一期	25名	2024.1.9(火)～1.16(火)	2024.1.19(金)	2024.1.23(火)
	二期	10名	2024.1.29(月)～2.7(水)	2024.2.10(土)	2024.2.15(木)
	三期	3名	2024.2.19(月)～3.8(金)	2024.3.12(火)	2024.3.14(木)
	試験科目	<ul style="list-style-type: none"> ● [コミュニケーション英語(I・II)] 英語、数学2教科のうち ● [数学(I・II・A)] 1教科を試験会場で選択 ●理科 [物理基礎・物理] 3科目のうち [化学基礎・化学] 1科目を試験会場で選択 [生物基礎・生物] ※英語、数学及び理科は各科目とも旧課程との共通部分から出題する 			
試験会場	一期 本学キャンパス・仙台 二期 本学キャンパス・仙台 三期 本学キャンパス				

奥羽大学報175 (通算 第300号) 2023年10月31日発行 発行 奥羽大学 学報編集委員会 委員長 清浦有祐	☎963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1 電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372 ホームページアドレス http://www.ohu-u.ac.jp メールアドレス info@ohu-u.ac.jp
---------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

最大6年間
学費
フルサポート
返納義務無し

給付型 特待生 制度

キミのやる気と実力を存分に活かしてほしい。
医療人としての人生をここから始めよう。
人間性豊かな歯科医師、薬剤師になるために。

歯学部

薬学部



奥羽大学 歯学部 薬学部

TEL. **024-932-9055** (歯学部)

TEL. **024-932-8995** (薬学部)

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
FAX. 024-933-7372 E-mail: info@ohu-u.ac.jp

奥羽大学 検索 www.ohu-u.ac.jp

奥羽大学 姉妹校 **東北歯科専門学校**

歯科衛生士科 歯科技工士科